

## 再評価個表

事業名	水利施設等保全高度化事業 (水利施設整備事業)	事業主体	愛媛県
施設・工区名等	<small>たかのじ</small> 高野地地区	事業箇所	八幡浜市 <small>たかのじ</small> 高野地
事業主旨	当地区の柑橘栽培は、用水施設整備の遅れにより、運搬や散水作業に多大な労力を費やしていることから、パイプライン等の畑地かんがい施設の早急な整備が望まれている。また、農家の高齢化や後継者不足により産地の維持が危うい中、施設整備と併せて担い手へ園地の集積を推進するとともに、生産コストの低減による高品質・高付加価値農業を展開し、温州・中晩柑・落葉果樹の複合果樹産地づくりを進めるものである。		
再評価の実施理由	「事業採択後 10 年が経過して継続中」の補助事業		

### 1. 地域の概要

本地区は八幡浜市南西部の山間部に位置し、地形は急傾斜で階段状の樹園地で柑橘栽培を営んでいる。当地区を含む八西地域は、県下の他産地に先駆け、果樹農業振興計画に基づき昭和 42 年に果樹広域濃密生産団地に指定された優良団地である。

また、この地域は、国営南予用水事業及び付帯県営かんがい排水事業（南予第一地区）に取り組み、用水の安定供給やスプリンクラーによる一斉防除、一斉かん水方式によるかんがいシステムを実現し、干ばつ被害の解消や防除等作業の省力化や労働負荷の削減を図っているが、本地区は、これら施設の整備が遅れており、農家の高齢化と高い生産コストや負荷の高い作業等から、後継者不足による産地力の低下が懸念されている。

### 2. 事業概要及び事業経緯

事業採択	平成 26 年度	完成予定	令和 10 年度（見込み）
用地着手	平成 27 年度	工事着手	平成 27 年度
全体事業費	964 百万円（うち用地費：30 百万円）		
(1) 事業概要	用水路工（パイプライン） 幹線水路 2.3 km、揚水機場 2 箇所、配水槽 2 箇所 畑地かんがい施設工 56.2ha		
(2) 事業経緯	平成 26 年度 事業採択、送水施設実施設計業務着手 平成 27 年度 用地買収着手、配水槽工事着手 平成 28 年度 畑地かんがい施設実施設計業務、幹線水路工事着手 平成 29 年度 畑地かんがい施設工事（支線水路（配水管））着手 平成 30 年度 揚水機場建屋工事着手 令和元年度 取水ポンプ製作据付工事着手 令和 2 年度 畑地かんがい施設工事（給水栓、給水スタンド）着手 令和 3 年度 送水ポンプ（中継）製作据付工事着手 令和 4 年度 畑地かんがい施設工事（支線水路（配水管）、給水栓、給水スタンド）継続実施 令和 5 年度以降 畑地かんがい施設工事継続		

### 3. 事業の必要性及び整備効果等

<b>(1) 事業の必要性</b>	<p>本地区は国営南予用水事業の受益地であるが、用水施設が未整備のため、運搬や散水作業に多大な労力を費やしていることから、施設の整備要望が強い。また、農家の高齢化や後継者不足により産地の維持が危うい中、地域が将来に渡って産地として生き残れるよう、施設整備と併せた担い手への園地集積を推進するとともに、生産コストの低減と軽労力化による経営の合理化及び高品質・高付加価値農業の展開を図り、より一層の複合果樹産地づくりを進める必要がある。</p>
<b>(2) 事業の整備効果</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用水施設（パイプライン、揚水機及び畑地かんがい施設）の整備により、園地内でのバルブ操作による給水が可能となることから、用水運搬の労力節減や生産コストの低減が図られ、若手担い手農家の増加が見込まれる。</li> <li>・用水が受益地内で十分確保できることから、高収益、高品質の作物が生産でき、収益の増加に繋がる。</li> </ul>
<b>(3) 事業を巡る社会経済情勢等の変化</b>	<p>本地区においても高齢の営農者が多くなっている中、農村地域の共同活動を支援する国の多面的機能支払交付金制度を活用し、地域住民による園内道の整備や草刈り等の共同活動に取り組む等、若手農家の負担軽減を図るとともに、地域一体となった農地や農業用施設の保全にも取り組んでいる。</p> <p>また、地域の若手女性が中心となって「企業組合高野地フルーツ倶楽部」を立ち上げ、加工品の製造、マルシェへの出店及びオンラインショップでの販売を展開している。</p>

### 4. 事業の進捗状況及び進捗の見込み

<p>(うち用地費) R4 末投資事業費</p>	<p>( 30 百万円) [進捗率：100%] (事業費換算) 610 百万円 [進捗率：63.3%] (事業費換算)</p>
<b>(1) 事業の進捗状況</b>	<p>本事業は、平成 26 年度に事業着手し、令和 4 年度までに主な送水施設工事（送水管、配水槽、揚水機場）は整備済みであり、残る園内畑地かんがい施設（配水管、給水栓、給水スタンド）を整備中である。</p>
<b>(2) これまでの整備効果</b>	<p>令和 4 年度までに送水施設工事は完了し、畑地かんがい施設についても給水スタンドが 4 基中 3 基整備され、取水可能となったことから、用水作業効率の向上と労働負荷の軽減が図られている。</p>
<b>(3) 今後の事業進捗の見込み</b>	<p>令和 5 年度以降については、畑地かんがい施設を継続して実施することとしており、必要な協議や施工期間の地元調整も完了していることから、令和 10 年度には完了する見込み。</p>

## 5. 事業の投資効果（費用対効果分析）

### (1) 用便益比

土地改良事業の費用対効果分析マニュアル（農林水産省農村振興局）に基づき算出。

C：総費用＝1,946百万円

- ・建設費 1,046百万円
- ・その他 900百万円

※その他は共用開始後40年間に必要な再整備費－40年後の資産価額

B：総便益＝2,996百万円

- ・作物生産効果 911百万円
- ・品質向上効果 2,184百万円
- ・営農経費節減効果 △123百万円
- ・維持管理費節減効果 △106百万円
- ・国産農作物安定供給効果 130百万円

$B / C = 2,996 / 1,946 = 1.53$

## 6. コスト縮減や代替案立案等の可能性

・配管工において、浅埋設可能な管に変更することで、土工費の縮減を図るとともに、工事期間の短縮を図った。

対象延長 2,360m、対象土量 248m<sup>3</sup>

日当たり施工量 11.0m/日 → 42.4m/日

縮減額 4百万円

## 7. その他

・愛媛県総合計画において、「施策 17：農林水産業の生産振興」に本事業を位置付けている。

・えひめ農林水産業振興プラン 2021 において、基本施策「(2) 競争力の高いえひめ農業の生産力・販売力を磨きます」の具体的推進事項「多様な担い手の規模拡大・所得の向上につながる生産基盤整備を推進します」に本事業を位置付けている。

## 8. 対応方針（素案）

本事業を『継続』としたい。

地形条件が厳しい中、高収益のかんきつ類を栽培している当地区において、パイプラインや畑地かんがい施設等の用水施設整備は、生産コストの低減、品質の向上及び担い手の確保に欠かせないものであり、地元も完成を心待ちにしている。特に懸案事項もなく、引き続き工事を進めれば令和 10 年度には事業完了する見込みである。